

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：水産業費 目：水産業振興費

事業名 鮎の輸出国拡大促進対策事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 里川振興課 水産振興室 水産係 電話番号：058-272-1111(内2913)

E-mail：c11428@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 5,634 千円 (前年度予算額：10,000 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	10,000	10,000	0	0	0	0	0	0	0
要求額	5,634	5,634	0	0	0	0	0	0	0
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

オーストラリアへの商業用鮎輸出解禁交渉に必要な資料を収集するために、鮎のリスク疾病である細菌性腎臓病(BKD)のサーベイランス体制を整備する。

※サーベイランス・・・監視伝染病の発生状況、病原体の検索、地理的分布等の情報を収集、分析、評価すること。

(2) 事業内容

○サーベイランス実施体制の整備

リスク疾病の浸潤状況調査のためのサンプリング、検査方法等の確立

検査に必要な機器類、試薬等の整備

○サーベイランスの実施

県内におけるリスク疾病の浸潤状況の調査、分析

○豪州政府が求める輸出解禁に必要な要件対応

輸出解禁に向けて豪州政府当局担当者による現地査察が行われた場合の対応

(3) 県負担・補助率の考え方

○ぎふ農業・農村基本計画（R3～R7）

第5章 政策の方向性

(3)ぎふ農畜水産物のブランド展開

①輸出拡大の強化

において、県が主体的に輸出ルート開拓の実施を進めることとしている。

(4) 類似事業の有無

無し

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費	945	検査等補助
旅費	57	補助職員旅費
旅費	187	業務旅費
消耗品費	3,453	検査検体、検査用具、試薬購入費等
役務費	480	翻訳業務
委託料	512	現地査察対応
合計	5,634	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

○ぎふ農業・農村基本計画（令和3～7年度）

第5章 政策の方向性

(3) りんご農畜水産物のブランド展開

⑥鮎を守り育てる体制の構築

○岐阜県SDGs未来都市計画

世界に誇る「ぎふブランド」の創造と発信

・鮎の輸出量をR5に10tとする目標を設定

(2) 国・他県の状況

○先行事例 サケ輸出解禁に向けて同様の調査・分析を実施（R1～R2）

(3) 後年度の財政負担

豪州への商業用鮎輸出の継続には、定期的なサーベイランスの実施が必要となる可能性があり、リスク疾病の検査・分析等に係る費用が発生する。

(4) 事業主体及びその妥当性

事業主体：県

妥当性：ぎふ農業・農村基本計画に基づき実施

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

令和2，3年度中に実施した、リスク疾病に対するサーベイランス結果を水産庁を通じて豪州政府に示すことで、鮎の商業輸出解禁に向けた二国間交渉の加速を促す。また、豪州政府当局担当者の現地査察に対応する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

輸出先の求めるサーベイランスの実施、データ提出が事業の目的であるため、目標値を設定することはできない。

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> 取組内容と成果を記載してください。 豪州政府から求められた対象リスク疾病（3疾病）の調査・分析の実施 対象疾病：細菌性腎臓病、せつそう病（細菌感染症）、伝染性造血器壊死症 サンプル：天然魚150個体×2箇所 養殖魚150個体×2箇所 調査回数：各2回（6～8月、9～11月の間に各1日採取） 結果 全てのサンプルにおいて、対象リスク疾病（3疾病）の陰性を確認
令和3年度	<p>令和5年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和4年度	<p>令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	海外輸出を進めるためにリスク疾病の浸潤状況を把握することは不可欠である。
・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価)	
・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価)	

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 輸出先との二国間交渉によって求められるサーベイランスの内容が変更される可能性がある。
--

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	
補助事業者 (団体)	(理由)
補助事業の概要	(目的) (内容)
補助率・補助単価等	定額・定率・その他 (例：人件費相当額) (内容) (理由)
補助効果	
終期の設定	終期〇〇年度 (理由)

(事業目標)

・終期までに何をどのような状態にしたいのか

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

補助金交付実績 (単位：千円)	H30年度	R元年度	R2年度

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	<ul style="list-style-type: none">取組内容と成果を記載してください。
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none">事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none">事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none">事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価)	

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none">事業が直面する課題や改善が必要な事項
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none">継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
